

北海道・三陸沖後発地震注意情報について

北海道・三陸沖
地震・津波に備えを！

マグニチュード **M7.0** 以上の大地震が起きたら…

東日本大震災のときは
3月9日 M7.3 続いて発生 3月11日 M9.0

続いて発生する巨大地震の可能性！
情報で備えを

「北海道・三陸沖後発地震注意情報」2022年12月運用開始

※情報が発信されたとしても、必ず巨大地震が発生するとは限りません。

すぐに避難できる態勢の準備を！

巨大地震が発生した場合に、北海道から千葉県にかけての広い範囲で想定される
甚大な被害に対し、1週間程度、備えの再確認や迅速な避難態勢の準備を。

枕元に避難を促して寝る
すぐに逃げ出せる態勢での就寝

非常持出品の常時携帯

インターネット
緊急情報の取得体制の確保

避難所までのフラッグ標識に近づかない
想定されるリスクから身の安全の確保

し尿
生尿
備蓄食品の賞味期限
器具転倒防止策
日頃から備えの再確認

内閣府（防災担当）・気象庁

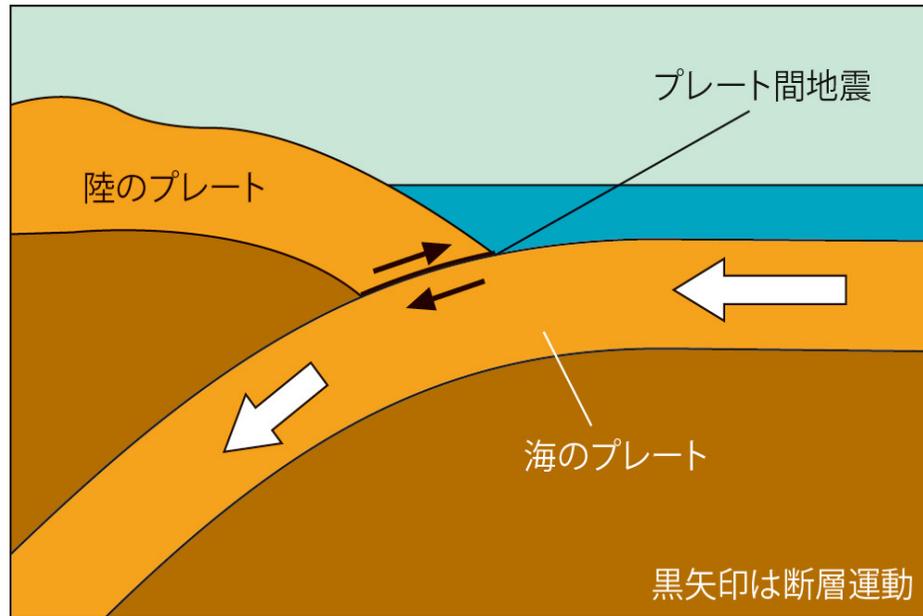
詳しくはこちら



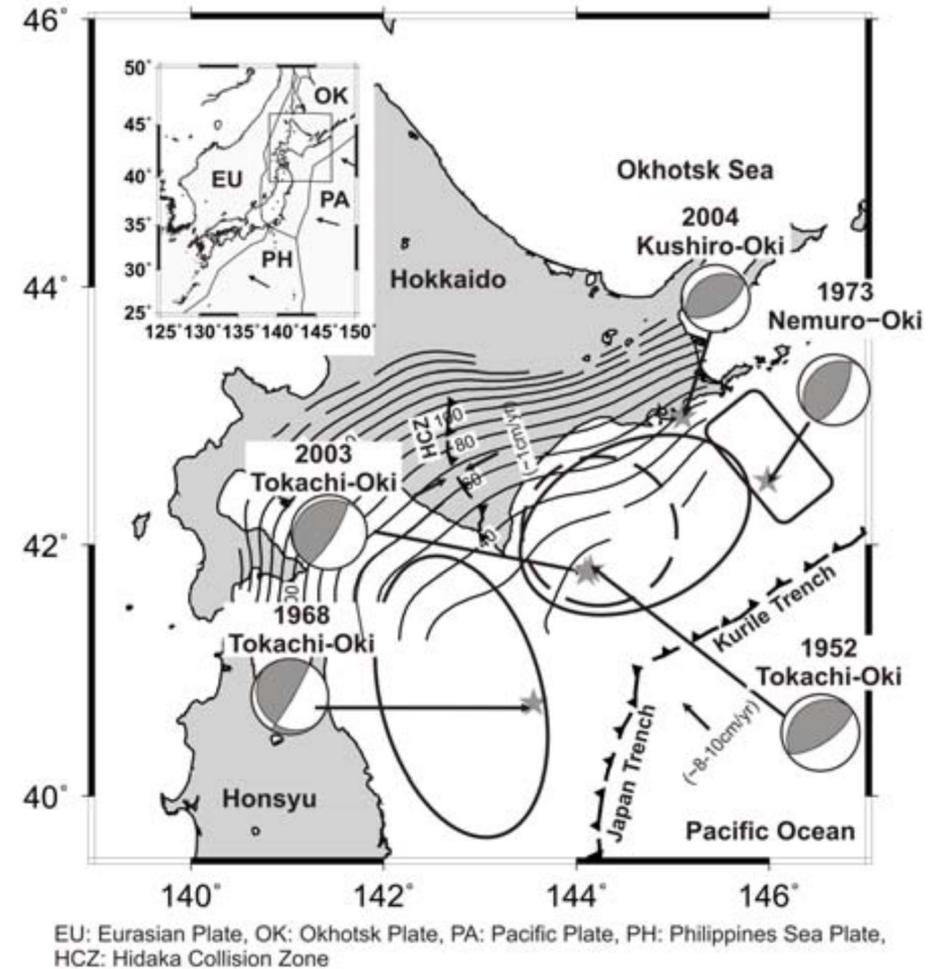
内閣府（防災担当）・気象庁 資料

https://www.bousai.go.jp/iishin/nihonkaiko_chishima/hokkaido/index.html

- 最近100年以内にも複数のM8クラスの地震（プレート間地震）
- 津波堆積物調査により、過去にはより大規模な地震が発生していた可能性が示されている



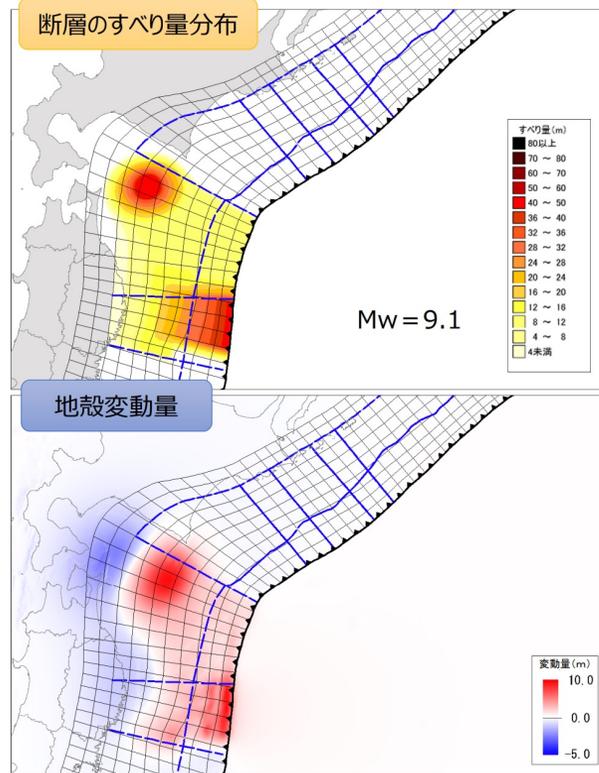
出典：地震調査研究推進本部



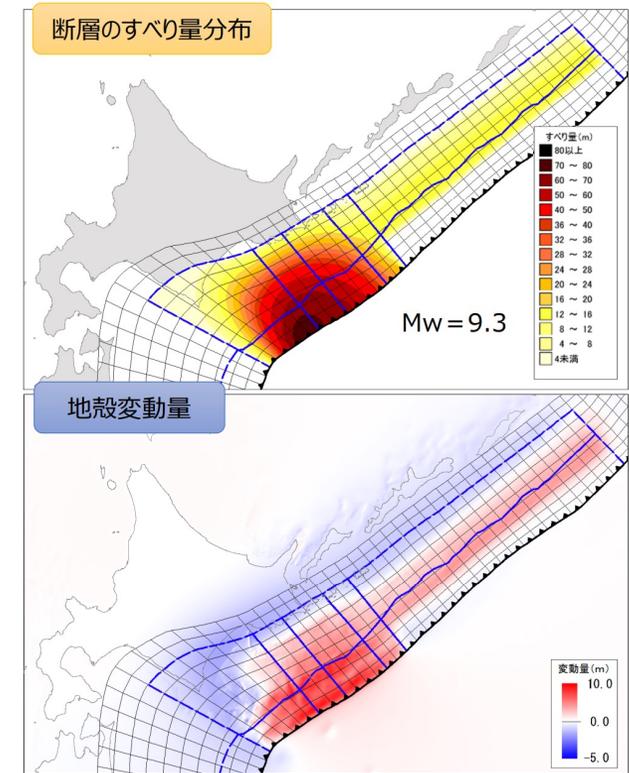
Tanioka and Ghimire (2011)

- 東日本大震災の教訓を踏まえ、津波堆積物調査などの科学的な知見をベースに、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの巨大な地震・津波を「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会」において検討
- 日本海溝（三陸・日高沖）と千島海溝（十勝・根室沖）について、それぞれ、 $M_w = 9.1$ 、 $M_w = 9.3$ のモデルが出された（2022年3月公表）

【①日本海溝（三陸・日高沖）モデル】



【②千島海溝（十勝・根室沖）モデル】

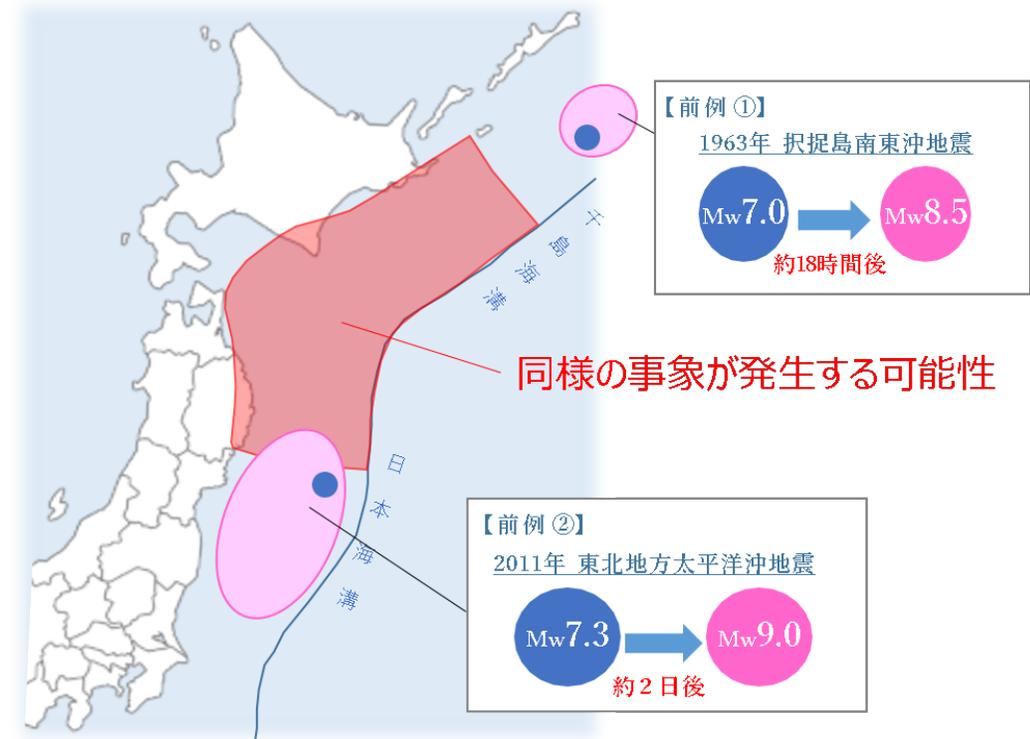


内閣府 北海道・三陸沖後発地震注意情報の解説ページに基づく説明

- 日本海溝・千島海溝沿いの領域では、Mw 7クラス以上の地震が発生した後に、更に大きなMw 8クラス以上の大規模な地震（後発地震）が発生した事例あり。今後も同様の事象が発生する可能性が考えられる（Mw：モーメントマグニチュード）
- 実際に後発地震が発生する確率は、世界の事例を踏まえても百回に1回程度と低いものの（一週間以内の発生確率）、発生した場合には北海道から千葉県にかけての広い範囲で甚大な被害が想定される



「北海道・三陸沖後発地震注意情報」の仕組みの導入
(2022年12月16日運用開始)



出典：内閣府 北海道・三陸沖後発地震注意情報の解説ページ

https://www.bousai.go.jp/jishin/nihonkaiko_chishima/hokkaido/index.html

- **目的**：日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の想定震源域とその周辺でMw 7以上の地震が発生した場合に、大地震の発生可能性が平時よりも相対的に高まっているとして、同情報を発表することにより後発地震への注意を促す。
- **対象**：日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震で強い揺れや高い津波が想定される地域にお住まいの方

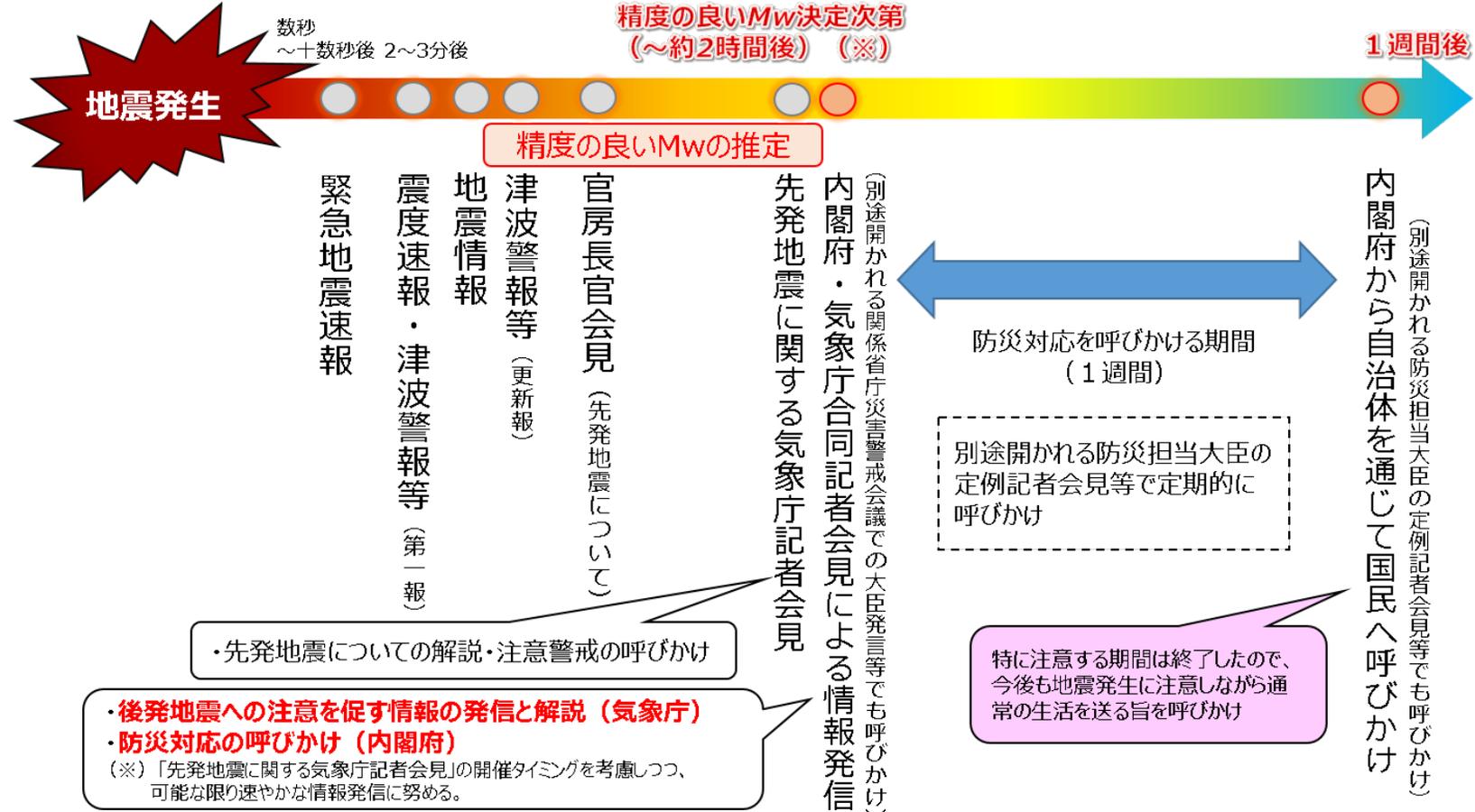
【情報の留意事項】

- 後発地震の発生可能性が平時よりも相対的に高まっていることを知らせるもので、情報が発信されたら後発地震が必ず発生するというものではない
- 先発地震を伴わず、大規模地震が突発的に発生する可能性がある
- 情報発信の対象とする地震の発生エリアの外側でも、先発地震が発生した周辺では、大規模地震が発生する可能性がある
- すでに発生した先発地震への対応と後発地震に備えた対応を混同しないよう要注意

想定震源域およびその周辺でMw7以上であることが確認され次第発表



【先発地震による震度が大きい場合や予想される津波が高い場合】



今回：

地震発生：12/8 午後11時15分頃

官房長官会見：12/9 午前0時15分頃 (地震発生から約1時間後)

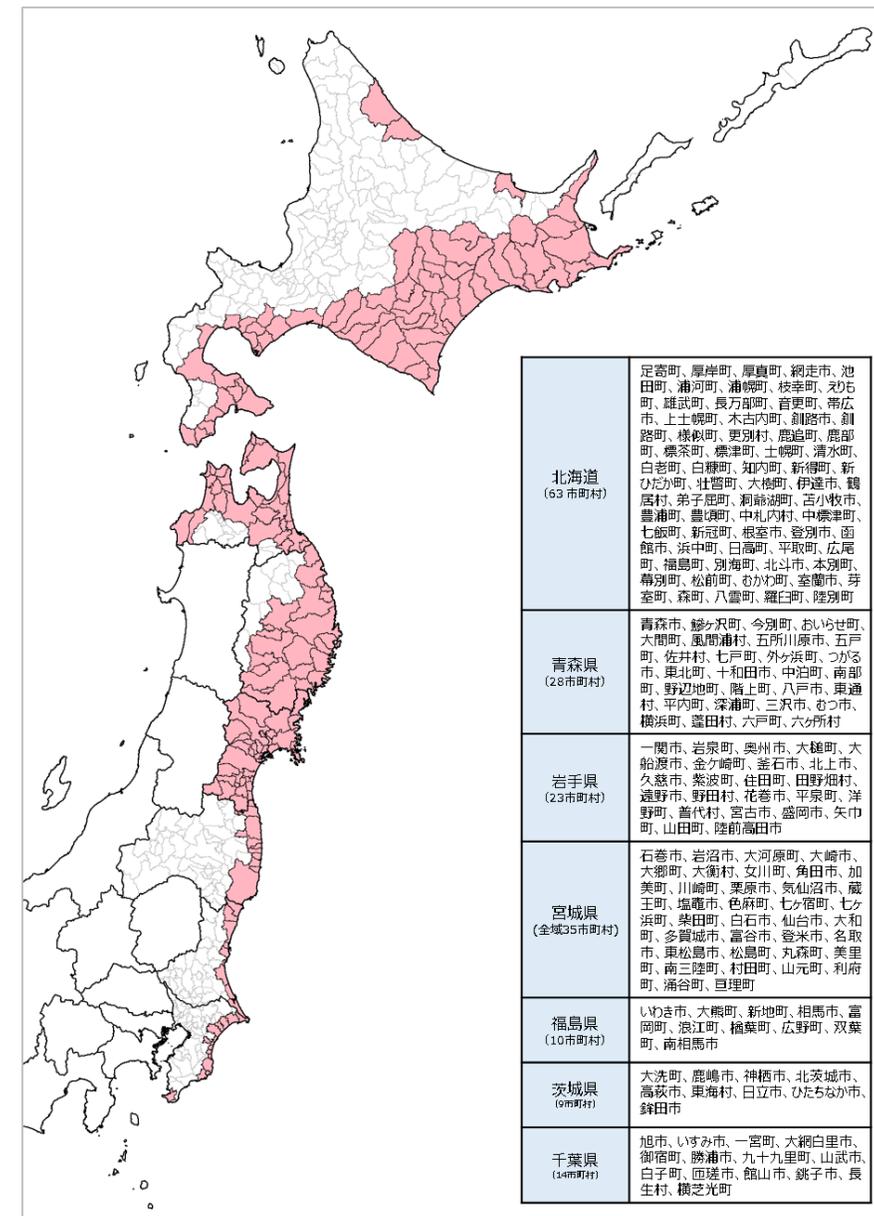
気象庁記者会見：12/9 午前1時過ぎ (地震発生から約2時間後)

内閣府・気象庁合同記者会見、注意情報発表：12/9 午前2時 (地震発生から約2時間45分後)

出典：内閣府 北海道・三陸沖後発地震注意情報の解説ページ

https://www.bousai.go.jp/jishin/nihonkaiko_chishima/hokkaido/index.html

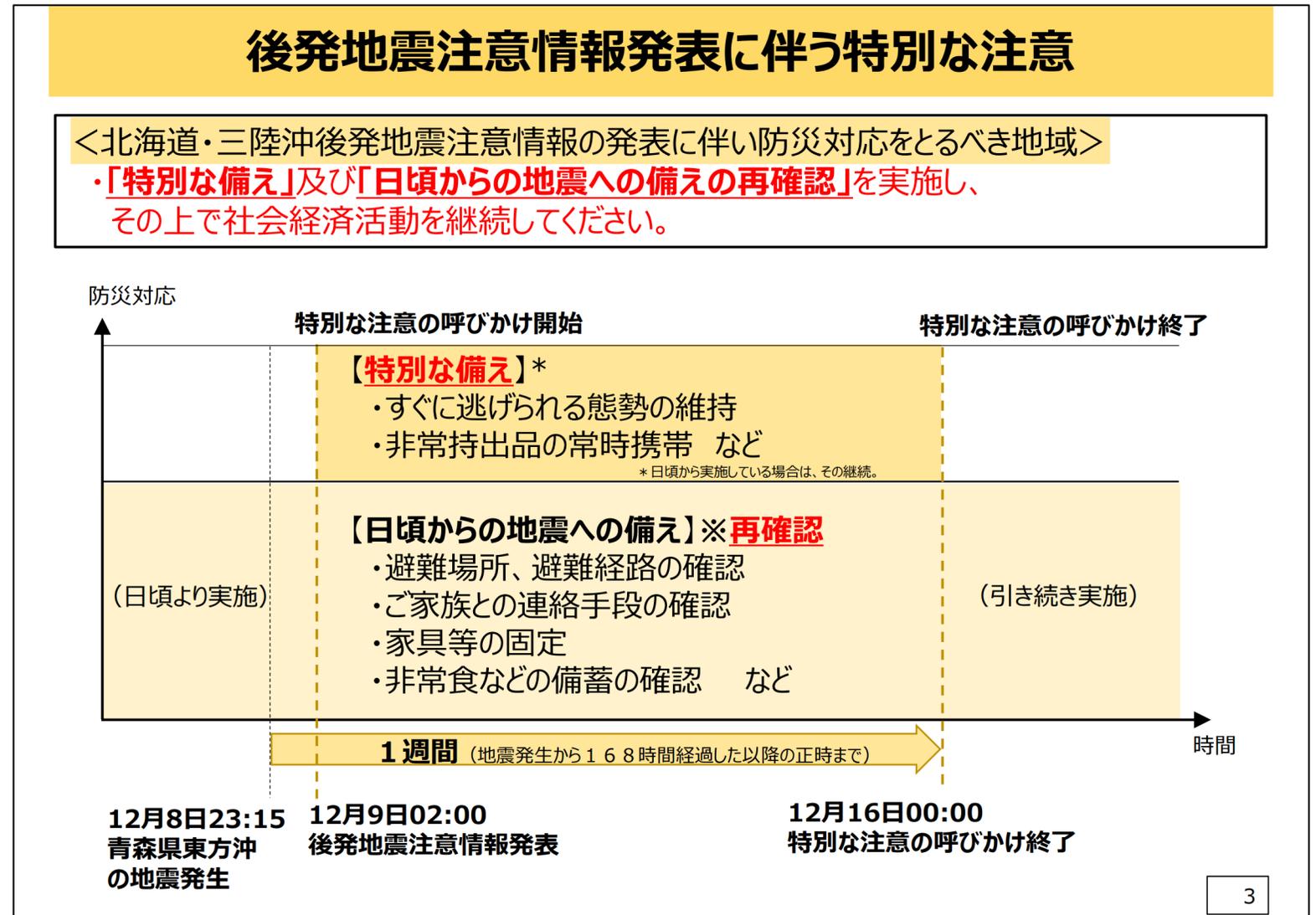
巨大地震で震度6弱以上、津波高3m以上となる市町村を基本として、関係道県と調整した上で整理



出典：内閣府 北海道・三陸沖後発地震注意情報の解説ページ
https://www.bousai.go.jp/jishin/nihonkaiko_chishima/hokkaido/index.html

「日頃からの地震への備えの再確認」と「特別な備え」

「社会経済活動の継続」



防災対応（住民）

- 次の地震により揺れを感じたり津波警報等が発表されたら、直ちに避難することが重要です。
- 地震への備えとして、以下の事項を実施してください。

日頃からの地震への備えの再確認

- 安全な避難場所・避難経路の確認、ご家族との連絡手段の確認、家具の固定、非常食などの備蓄の確認 など



日頃からの地震への備えの再確認

後発地震注意情報の発表に伴う特別な備え

- 昼夜問わず津波警報等が発表されても速やかに避難し命を守ることができるよう、すぐに逃げられる態勢の維持や非常持出品の常時携帯 など



すぐに逃げられる態勢の維持
非常持出品の常時携帯

を実施した上で、**社会経済活動を継続**してください。

5

防災対応（住民） ～日頃からの地震の備え～

- 情報が発表された際に、慌てず防災行動をとるためには、日頃からの地震への備えが大切です。下記のような備えは日頃から行い、情報が発表された際に再確認することが重要です。
- このような備えをすることで、強い揺れや津波等から命を守ることに繋がる他、地震発生後の避難生活の備えとなります。

迅速な避難体制・準備

- 地域のハザードマップでどのような危険があるかを確認する
- 安全な避難場所・避難経路等を確認する
- 家族との連絡手段を決めておく
- 非常持出品を準備しておく
 - 食料、水、常備薬
 - 懐中電灯、携帯ラジオ
 - 身分証明書、貴重品 等

出火や延焼の防止対策

- 火災警報器の電池切れがないことを確認する
- 漏電遮断機や感震ブレーカー等を設置する

室内の対策

- 窓ガラスの飛散防止対策をする
- タンス類・本棚の転倒防止対策をする
- ベッド頭上に物を置かない

地震発生後の避難生活の備え

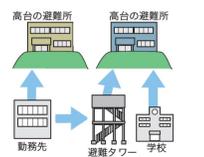
- 水や食料の備蓄を多めに確保する
- 簡易トイレを用意する
- 携帯ラジオや携帯電話の予備バッテリー等を準備する

6

防災対応（事業者等）

- 避難場所、避難経路及び避難誘導手順の再確認の徹底や、
- 従業員や施設利用者への情報の正確かつ迅速な伝達など、

揺れを感じたり、津波警報等が発表されたりした場合、従業員や施設利用者が直ちに避難できる態勢をとった上で、社会経済活動を継続してください。



避難経路、避難誘導手順等の再確認



従業員や施設利用者への情報伝達

7

その他の注意事項

- 偽・誤情報について
無用の混乱を避けるために正しい情報を見極め、偽・誤情報の拡散などは絶対に行わないでください。（例えば、●月●日に巨大地震が発生するといった、具体的な日時等を指定して地震発生を予知する情報を政府が発表することはありません。）
- 過度な買いだめ・買い急ぎについて
経済的・社会的混乱を最小限に抑えるため、食料品や生活必需品の必要以上の買いだめ、買い急ぎはお控えください。

8

- 北海道・三陸沖（千島海溝・日本海溝沿い）は巨大地震が発生する場所
- M 7クラスの地震のあと、あまり時間を置かずに、巨大地震（M 8クラス以上）が発生することがある
- そのような後発巨大地震の発生に注意を促すのが、「北海道・三陸沖後発地震 注意情報」
- 地震発生から一週間のあいだ（確率は時間とともに減少）、特別な注意の呼びかけ。その内容は、備えの再確認・実施＋特別な備え（寒さ・雪・雨対策も重要！）

コメント：

- 具体的にどのような対応が必要かは、住んでいる場所や生活状況によって異なる
- 自身の状況に照らし合わせ、備え方を考えることが大切